

二〇〇四年第3回定例市議会

鈴木やす子市議の一般質問から

米価暴落と市の姿勢

「鈴木やす子議員」 昨年は不作で米価が上がったが、政府による超古米の放出があり、一転して米価の下落傾向となり、市場は米余りとなっている。この秋の豊作が予想される中、米価暴落が懸



一般質問に立つ鈴木やす子市議(9月12日)

念される事態となっている。農協仮渡し金が一俵で一万一〇〇〇円という額が出されているが、この実態をどう認識しているか。稲作農家の所得減がどの程度となり、どれほどの影響になるのか。この事態に対して、対策は考えているのか。

「環境産業部長」 今年の県の作況概況はやや良の一〇二。昨年来、米の消費量が減少し

大幅な流通在庫があるといわれている。販売価格の低下や在庫増大が懸念される。

この低価格による減収は、八月末の入札単価で市内平均反収八俵と仮定すると、市内稲作平均耕作面積(約六〇a)で一九万五〇〇〇円、また、担い手稲作耕作面積三haでは九七万六〇〇〇円となる。自治体での取り組みは、今年から始まった集荷円滑化対策ならびに稲作所得基盤確保対策制度への加入を農協等と連携をはかりながら推進していく。

「鈴木議員」 補填制度への加入を促進することだが、この状態に対して行政の側に危機感が薄いと危惧している。兼業農家で低く見積もっても、一ヶ月分の給料の所得減である。ましてや、大きくやっている担い手農家のばあい、十年前に市みずから作ったモデルと比較すると四分の一、あるいは半分にも近い単価の下落である。「首をくくるしかない」という農家の悲痛の叫びに責任もつて対応すべきではないか。売れる米づくりというならば、あるいは地域農業を守るといふならば、行政が率先して公共施設で地場の食材を使う、また市民にアピールする、使つてたべてもらう工夫を農協任せでなく企画・提案すべきだ。

そうした市当局の姿勢が見えてこそ、市民も気持ちを寄せ、真のまちづくりにつながるのではないか。

巡回バスへの要望

「鈴木議員」 この春から、市内巡回バスに加えて、主に市内の医療機関を回る地域巡回バスが試行運転され、利用客も尻上がりが増えている。そこで、この春からの巡回バスの現状について、利用

(ウラ面につづく)

隈川ツルちゃん



市内最高齢
104歳

元気

敬老の日、市内最高齢の隈川ツルさんを
大津町の自宅に訪ねました。一〇月三日
の誕生日が来ると一〇四歳になります。
ちょうど一九〇〇年の生まれで、一九世
紀から二〇世紀、二二世紀と足かけ三世
紀にわたる堂々たる人生です。

かつて十代で看護婦の資格を取って働
き、さらに助産婦の資格も得たいと、単身
東京へ出ました。二人姉妹の長女でした
が、当時にあつて恋愛結婚。

長男が生まれたばかりのころ、関東大震
災に襲われました。乳飲み子を日立市の
実家にあずけ、看護婦として果たすべき
責務があると被災地へ戻ったそうです。

その後、水戸市でご主人以上の働きで写
真館を切り盛りしましたが、戦争末期、

米軍が撤いた爆撃の予告チラシをみて、それが日本ではとても手に入らない上質な紙だったことから、米軍の警告は本当だと直感し、すべてを捨てて福島県の遠野に疎開しました。

大津町で写真館を営むなどを経て、ご主人を看取ったのが東京で七四歳のとき。それから自分の青春だと、全国各地を旅するなど生き生きと過ごしてきたそうです。九九歳のときに北茨城市に移り、末娘さんと暮らしています。

戦後、女性が初めて選挙権を手にして以来、その権利を大切に行使していることもうかがいました。まさに自立した女性像の先駆けのような姿にふれて、訪ねた記者のほうが大いに励まされました。

(オモテ面からつづき、鈴木やす子市議の質問大要)

客数、利用料額など、伺う。また、担当課には、どういう意見・要望が寄せられ、どのような検討や改善が図られるのか、お答え願う。例えば、乗降時のステップの高さの問題とか、バス停留所の位置、また、地域巡回バスの運行継続については如何か。

「市長公室長」 本運行した昨年度は、約六万人の利用客。今年に入つての五ヶ月間で、約二七〇〇〇人、前年同期で約九〇〇〇人の増加となり、利用料金収入は約二六四〇〇〇〇円で、今後も利用増が見込まれる。ローステップ車の導入については、道路の起伏が多い市内の道路条件下では、車両構造上難しい。運行継続や他要望については、巡回バス再評価委員会で検討していく。

ブロードバンドの条件整備

「鈴木議員」 情報化がすすんでいるが、ハード面で地域間格差があるのも事実。ブロードバンドの普及についてこの街の現況を伺う。また、その是正のための検討はどうか。

闇の政治資金

-1-

「参ったよ。幹部たちは困っている」。自民党森派(清和政策研究会)関係者が深刻な顔つきで語りま

ウソと沈黙で

本紙十日付一面のスクープが小泉首相の出身派閥・森派に衝撃を与えていま

——清和政策研究会(会長・森喜朗前首相)が年二回、年末とお盆に「もち代」「水代」と呼んで派内議員に配る特別手当(各二百万円)年間一億円前後を少な

くとも五年間にわたり、政治資金収支報告書に記載していない。一件五万円以上の支出先、金額を記載する

よう義務つけた政治資金規正法に違反する疑いがある。

これが本紙報道のポイントでした。直後、マスコミ各社から森派に問い合わせが相次ぎました。森派は「もち代」「水代」は出して

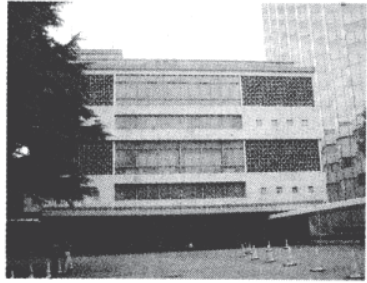
いないというウソや沈黙で対応しています。「もち代」「水代」の支出は、日本歯科医師連盟(日



小泉首相



森前首相



清和政策研究会事務所がある赤坂プリンスホテル別館(東京・千代田区)

首相足元に衝撃

「訂正すれば収拾つかない」

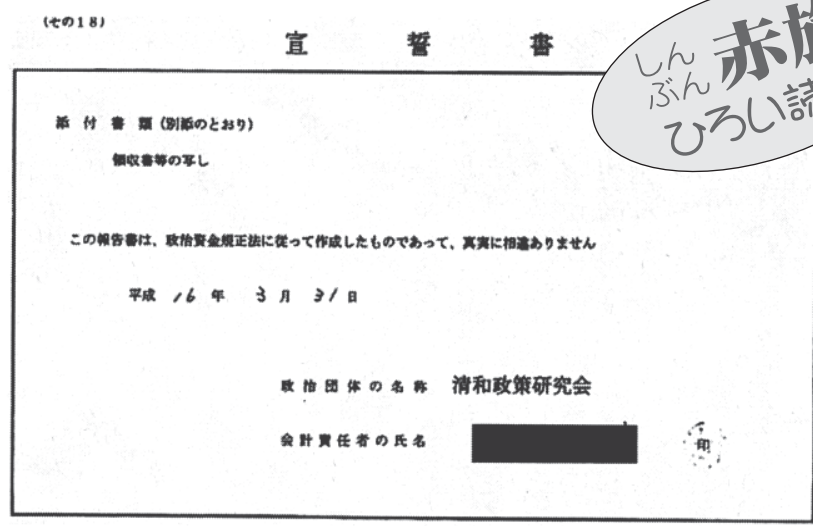
森派ぐるみのでたらめ収支報告

「市長公室長」 現在の市でのADSL利用者は、約一八〇〇件となっている。このADSLサービスは、電話交換局から半径約3kmの範囲が利用できることとされている。地域間格差があるのは情報化の進展においての課題と認識している。光ケーブルによるサービス開始については、市内の開通希望者の数が達成していないことにより、まだ見通しはもてないとの回答である。今後も、検討・調査していく。

「鈴木議員」 どぶろく特区については、宿泊が条件ということ、利用水については規制があると思うが、どぶろく醸造についての水についてはどうか。

「環境産業部長」 飲食営業用として、水質検査と滅菌機等の設置が義務づけられている。どぶろく製造については、水質検査のみが必要となっており、自然水の活用が考えられている。

赤旗 しんぶん ひろい読み



「真実」を誓う森派の政治資金収支報告書ですが...

載している「もち代」「水代」をなぜ、森派は隠し続けるのか。どこから闇の収入があったのか。日歯連からの一億円献金不記載で会計責任者が逮捕された旧橋本派と構図が似てきます。

収入も支出も

問題は派閥の議員全体に波及します。森派が「もち代」「水代」の対象としている衆院当選三回までと参院一回までの同派議員の資金管理団体や党支部の報告書(〇二年分)を調べたところ、該当する収入の記載はありませ

は、つじつまが合いません。問題を追及します。

(nny)